

路面電車と京都の復興

これは日本にとって初期の路面電車の一つです。水力発電を動力としたこの路面電車は、平安神宮の創建と同じ 1895 年に京都に導入されました。この車両は、京都駅と平安神宮地区を結んで実際に公共交通機関として運行していた路面電車の一つです。

線路の敷設と平安神宮の創建は、京都で開催された大規模な博覧会である、第 4 回内国勸業博覧会（平安神宮近くで開催）と同時になるよう計画されました。これらの計画はより大規模な再生プロジェクトの一環として、平安京遷都 1100 周年に合わせて進められました。このプロジェクトは、京都の伝統を祝福すると同時に、明治時代（1868～1912）が始まる 1868 年の東京への首都移転後、京都に生じた経済状況の低迷と人口減少をくいとめることを目的としていました。

路面電車は、1961 年まで京都で運行していました。ここに展示されている車両は、運行が終了したのち、平安神宮に寄贈され、19 世紀後半の復興への取り組みの象徴となりました。